

風景探訪

段丘の村

見なれた景観の
魅力を再発見

人は自然条件を活かして、その土地にふさわしい生活の形態を築いてきました。自然と人の営みが調和した風景を、私たちは美しいと感じます。風景はその土地固有の文化といえるでしょう。

最初の「中川らしき」は、この風景から探訪します。長い時間をかけて根を下ろした生活の様子を、見なれた風景の中に探ってみましょう。



陣馬形山頂は伊那谷を代表するビューポイント

遠景から

風土を特徴づける自然の造形美

山

伊那谷は中央アルプスと南アルプスに挟まれているため、山脈が空間の広がりを見せ、適度なまとまりのある空間をつくっています。

景観面で中川村を象徴する山は、やはり中央アルプス。地域のランドマークにもなり、一年一日の季節・時

間とともに、その姿を刻々と変えていきます。村には多様な自然の造形美がありますが、中央アルプスが背景となつてその美しさを一層際立たせています。

景観面の魅力とともに、山で仕切られたまとまりある空間（地域社会）の中で、人々は地域らしさを醸成し自治意識を育んできたことも大切な点です。



天竜川の支流・前沢川が刻んだ深い谷

段丘と谷

段丘や扇状地が織り成す風景。天竜川に注ぐ幾筋もの支流が刻んだ谷。丘陵や谷の複雑で変化に富んだ地形全体を、天竜川を隔てた東西両側から望めるのが中川村です。

段丘の上段・中段・下段では、気候風土の違いから植生や農業形態に差が出ます。上

段は山林や畑地、中段は樹園地、そして下段は水田と、風景も変化します。美里地区のよう

な、谷が入り組んだ風景は奥行ききの深さを感じさせます。谷で切られた小規模な地形が接し合い、独特の谷の風景を形成しています。

天竜川

村名にもつながる「天の中川」は天竜川の古称。平安時代の「更級日記」にもその名が登場します。この、伊那



牧ヶ原橋から天竜川を望む

谷を北から南に流れ下る天竜川もまた、中川村に欠かせない自然景観の象徴です。

それまで比較的まっすぐ流れてきた川は、坂戸橋下流から天の中川橋にかけて大きく蛇行し川幅を広げます。坂戸橋や牧ヶ原橋の景観、チャオ周辺の堤防や河川敷、川沿いの水田地帯など、天竜川を取り巻く風景も多彩です。